

平成30年 6月26日現在

機関番号：13103

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K01060

研究課題名(和文) 中学年の小学校外国語活動へのポートフォリオの適応可能性とCLIL型活動の効果

研究課題名(英文) Applicability of Portfolios to Foreign Language Activities for Third and Fourth Graders and the Effects of CLIL Approach

研究代表者

北條 礼子 (HOJO, Reiko)

上越教育大学・大学院学校教育研究科・教授

研究者番号：50199460

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：2020年度から小学校中学年で外国語活動の必修化が決定している。同活動において教授ツール、評価ツールとしてのポートフォリオの適用が可能か、CLIL型の英語学習プログラムの効果を確認することが本研究の目的であった。ポートフォリオの適用は、授業者の丁寧な支援があれば可能であること、カンファレンスを重視すれば自律的態度の養成や自分の学習の内省に教授ツールとして効果があること、自らのアルファベットの大文字・小文字や簡単な英単語を書いたものを収集することで、自分の成長を確認でき、評価ツールとして効果があることがわかった。また、CLIL型活動も児童の関心を十分に高めることができることがわかった。

研究成果の概要(英文)：In 2020, Foreign Language Activities will be compulsory at fourth grades. The purposes of this study was 1) to investigate if portfolios would be applicable to the activities as an instructional tool as well as an evaluation tool; 2) to investigate the effects of CLIL (Content and Language Integrated Learning) type activities. In this study, learning programs of writing and reading alphabets and easy English words and the ones utilizing CLIL approach were made and put into practice. The results showed that 1) portfolios could be applied to 4th graders as an instructional tool as well as an evaluation tool. In the former, teachers' help was found to be crucial, while in the latter students could see their own development through collecting the papers in which they wrote Roman letters and easy English words; 2) CLIL type learning programs were found to be able to catch the students' interest which could enhance their motivation for learning English.

研究分野：教育工学、小学校英語

キーワード：ポートフォリオ CLIL 文字指導 小学校英語 外国語活動

1. 研究開始当初の背景

小学校高学年における英語の教科化が、中学年において外国語活動の必修化が検討されていた当時の状況の下、実際には塾等での公教育の場以外で英語を早期から学習している児童がかなり存在し、低学年からの児童の英語力格差が指摘されていた。また、5年生時点で高不安、低意欲という英語学習への動機づけが低下している児童の存在が高学年5・6年において10人中役4人と、かなりの数になることも報告されていた。以上の状況から、児童の英語力格差を縮小し、自律的学習態度の養成に効果があり、同時に知的好奇心を刺激することにより、英語学習への動機づけを向上させることが必要であると考えられた。そのための手立てとして、アルファベットや英単語、簡単な英文を書くことを取り入れた文字指導、ポートフォリオ作成、ヨーロッパ発祥の他教科内容を活用する内容言語統合型学習(Content and Language Integrated Learning: 以下 CLIL)のアプローチを取り入れた外国語学習プログラムの開発が有効であることを検討することは重要であると考えられた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、フォニックスを活用してアルファベットや簡易で身近な英単語、簡単な英文の読み方だけでなく、書くことを取り入れた文字指導、ポートフォリオ作成、内容言語統合型学習(Content and Language Integrated Learning: 以下 CLIL)のアプローチを取り入れた外国語学習プログラムを開発し、その効果を明らかにすることであった。なお、高学年については、以上

の効果が期待されることが明らかになったため、本研究では、中学年児童が対象であってもこの効果が確認できるのかどうかを明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

初年度には、中学年児童対象に3年生では文字指導を中心都市、4年生ではさらにポートフォリオ作成と CLIL 型の学習という、以上の3つの手立てを組み入れた外国語学習プログラムを開発し、研究代表者の勤務先の大学附属小学校において試行した。その効果を確認し、次年度にはその改訂版をそして最終年度にはさらなる改訂版を開発し、実践の上、同校4年生2クラスにおいて効果を確認した。

4. 研究成果

まず、書くことを重視した文字学習は中学年児童3,4年生の両学年において、読み書きのどちらのテスト得点も向上したことが確認され、情意面でも好意的に捉えられたことと、書くという活動が児童の負担にならず、書くことを嫌がる児童が見受けられなかったことが明らかになった。次に、4年生であれば、自分の書いたアルファベットや、代表的なマジック e などのフォニックス・ルールを学んだ後に自分が読めるようになった英単語を書いたプリントを児童各自がポートフォリオに収集し、その後にカンファレンスの実施を重視したポートフォリオを作成すると、英語学習への自律的学習態度の養成も期待できることが確認された。ただし、ポートフォリオの作成やカンファレンスの実施に当たり、授業者の丁寧で細かい支援が必要であることも明らかになった。さらに、中学

年であっても、4年生の段階において、児童の知的発達段階に合致した既習の他教科内容(理科、社会)を活用した CLIL 型学習は児童の知的関心を引き、英語学習への動機づけを向上させる上で効果があることがわかった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

北條 礼子、加藤 絵理、松崎 邦守、
小学校外国語活動における4年生児童対象のポートフォリオを活用した文字学習の授業設計とその効果、上越教育大学研究紀要、査読無、Vol. 37、No. 1、2017、173 - 182

北條 礼子、松崎 邦守、藤田 真実、
中野 博幸、小学校外国語活動における6年生児童の動機づけを高める Kinect を活用した国際交流プログラムの開発とその効果、上越教育大学研究紀要、査読無、Vol. 36、No. 2、2017、541 - 548

北條 礼子、小学校英語教育における内容言語統合型学習(CLIL)の可能性：ドイツにおける CLIL をはじめとする英語教育事情にも注目して、上越教育大学研究紀要、査読無、Vol. 36、No.1、2016、185 - 192

北條 礼子、松崎 邦守、高橋 駿、小学校外国語活動における5年生児童の動機づけを高める授業の設計とその効果 2：文字指導とポートフォリオのカンファレンスに注目して、上越教育大学研

究紀要、査読無、Vol. 35、2016、195 - 203

〔学会発表〕(計15件)

高橋 紳太郎、北條 礼子、本多 みず穂、松崎 邦守、前田 薫子、小学校3年生児童への英語の読み書きの指導とその効果、平成29年9月18日 2017年日本教育工学会第33回全国大会

北條 礼子、小林 純子、樺澤 有希子、松井 佑太郎、小学校4年生児童用のフォニックス、CLIL とポートフォリオを活用した英語の文字指導プログラムの開発、2017年9月18日 2017年日本教育工学会第33回全国大会

宮澤 俊一、北條 礼子、松崎 邦守、藤井 佑輔、小学校外国語活動における3年生児童に向けた動機づけを高める文字指導を取り入れた授業設計と効果、2016年日本教育工学会第32回全国大会、2016年9月19日

北條 礼子、松崎 邦守、加藤 絵理、小学校外国語活動における4年生児童対象のポートフォリオを活用した文字学習の授業設計と効果、2016年日本教育工学会第32回全国大会、2016年9月19日

茂木 淳子、北條 礼子、アクティブ・ラーニングにおける CLIL 実践の効果、JES 小学校英語教育学会全国大会第18回宮城大会、2016年7月23日

小林 純子、北條 礼子、松崎 邦守、小学校5年生におけるフォニックスを用いた文字指導の効果 - 「声優になろう」活動をゴールとして、JES 小学校英語教育学会全国大会第18回宮城大会、2016

年7月23日

藤井 佑輔、北條 礼子、松崎 邦守、
本間 奈央、幸田 勝敏、中村 真衣波、
小学校外国語活動における4年生児童に
向けた動機づけを高める文字指導を取
り入れた授業設計と効果、2015年日本教
育工学会第31回全国大会、2015年9月
22日

高橋 駿、北條 礼子、松崎 邦守、小
林 瞳、山中 ひかる、木村 理奈、小
学校外国語活動における5年生児童の動
機づけを高める文字指導を取り入れた授
業設計とその効果、2015年日本教育工
学会第31回全国大会 2015年9月22日

茂木 淳子、中野 博幸、北條 礼子、
ARとKinectを用いた単語習得の効果、
2015年日本教育工学会第31回全国大会、
2015年9月23日

加藤 絵理、北條 礼子、金安 由理、
松崎 邦守、児玉 誉也、楠 愛莉香、
小学校3年生児童の英語の文字の読み書
きに関する動機づけを高めるプログラ
ムの開発とその効果、2015年日本教育工
学会第31回全国大会 平成27年9月21日

藤田 真実、北條 礼子、中野 博幸、
松崎 邦守、宮澤 俊一、藤井 裕記、
進藤 恵子、和田 諭、小学校6年生児
童の英語学習に対する動機づけを高める
KINECTを用いた国際交流プログラムの開
発とその効果、2015年日本教育工学会第
31回全国大会 平成27年9月21日

北條 礼子、松崎 邦守、中野 博幸、
高橋 駿、進藤 恵子、小学校外国語活
動における高学年児童の動機づけを高
めるポートフォリオを活用した授業設計と

効果、2015年日本教育工学会第31回全
国大会、平成27年9月22日

藤井 佑輔、北條 礼子、松崎 邦守、
本間 奈央、幸田 勝敏、中村 真衣波、
小学校外国語活動における4年生児童に
向けた動機づけを高める文字指導を取
り入れた授業設計と効果、2015年日本教
育工学会第31回全国大会 平成27年9
月22日

高橋 駿、北條 礼子、松崎 邦守、小
林 瞳、山中 ひかる、木村 理奈、小
学校外国語活動における5年生児童の動
機づけを高める文字指導を取り入れた授
業設計とその効果、2015年日本教育工
学会第31回全国大会 平成27年9月22
日

茂木 淳子、中野 博幸、北條 礼子、
ARとKinectを用いた単語習得の効果、
2015年日本教育工学会第31回全国大会
平成27年9月23日

6. 研究組織

(1) 研究代表者

北條 礼子 (HOJO, Reiko)
上越教育大学・大学院学校教育研究科・教
授

研究者番号：50199460

(2) 研究分担者

松崎 邦守 (MATSUZAKI, Kunimori)
上越教育大学・大学院学校教育研究科・教
授

研究者番号：90584160

(4) 研究協力者

茂木 淳子 (MOTEGI, Junko)
新潟県上越市立柿崎小学校・教諭